



市営の合葬墓 大規模に

東山霊園 28年度建設計画決定

塩尻市は、市営東山霊園(旧塩尻)で利用者が遺骨を共同埋葬する「合葬墓」の建設計画をまとめ、13日の市議会議員全員協議会に示した。管理棟南側の花壇・植樹帯に、県内の公営墓地では2番目の規模となる鉄筋コンクリート造の平屋21平方メートルを平成28年度に建設し、29年4月に募集を始める。多様化する墓地需要に対応しつつ、聖地から合葬墓への切り替えも促す。

(宮沢 一)

合葬墓には、骨つぼなども設置する。建設で収納する個別埋葬用費は約2200万円がの金属製納骨壇(ロッカー式)を224体分見込まれている。

利用者を市外在住者と、遺骨を共同で散骨まで対象とするかどうかや、個別埋葬の骨つぼ(納骨室)をおよそ70体分設ける。礼拝用の祭壇や献花台、墓誌

では、核家族化や少子高齢化が進み、これまでのように家族単位で墓を維持していくことが困難な状況が出てきている。市が霊園使用者を対象に行った25年度の調査では、聖地返還を希望した145人のうち、「承継する親族がいない」という理由が54%で最多、「遠隔地に住んでいて維持管理できない」が次いで17%を占めた。

東山霊園には、墓の

建設で聖地の返還を検討する霊園利用者もいることから、市生活環境課は「販売可能な聖地残余数を増やすことが可能」とみる。

市によると、県内では9カ所の公営墓地に合葬墓が設置されており、個別埋葬数では110～145体分が主流となっている。市民生活事業部の鳥羽嘉彦部長は「今後ますます合葬墓の需要が増える」と予想されるので、規模は若干大きく計画した」と説明した。

墓地の形態をめぐつ